

報道関係各位

国立新美術館 開館 15 周年についてのご案内

国立新美術館はおかげさまで 2022 年 1 月 21 日に開館 15 周年を迎えました。館長からのメッセージとあわせて、周年記念で実施する企画展、また今年度開始する新規事業等につきご紹介いたします。

「開館 15 周年にあたって」 国立新美術館長 逢坂恵理子



今年で 15 年目を迎えた国立新美術館では、若手、中堅、ベテランと幅広い世代による作品展示とともに、講座やワークショップ、資料展示など多彩な事業を展開して、創作の軌跡を多角的に読み解きます。

15 年は人間でいえば、多感な 10 代半ば。パブリックスペースを使った若手作家による小展示や 10 代のためのワークショップなど、若い世代に焦点を当てた新たなプロジェクトも開始します。美術館がひとりひとりにとって「参加し感じ考える」豊かな体験の場となることを期待しています。

<https://www.nact.jp/information/introduce/directorgeneral/messages/20220608.html>

1. 国立新美術館開館 15 周年記念 李禹煥

https://www.nact.jp/exhibition_special/2022/leeufan/

開館 15 周年を記念して、国際的にも大きな注目を集めてきた「もの派」を代表する美術家、李禹煥（リ・ウファン、1936 年生）の東京では初めてとなる大規模な回顧展を 2022 年 8 月 10 日（水）～11 月 7 日（月）に開催します。



2. NACT View

2022 年より新規事業として美術館のパブリックスペースを使った小展示「NACT View」シリーズを開催いたします。黒川紀章が設計した建築は、スペクタクルでありつつ、細部にまで意匠が凝らされています。多くの人が憩い、通り抜ける広場のようなパブリックスペースで、多くの皆さまに楽しんでいただけるよう、若手から中堅の美術家、デザイナー、建築家、映像作家を招聘し、現代の多様な表現をご紹介します。

■ NACT View 01 玉山拓郎 <https://www.nact.jp/2022/nactview-01/>

第一回目は現代美術家の玉山拓郎（たまやま・たくろう）を招き、2022 年 7 月（予定）より、既存の空間を舞台に見知らぬ風景を生み出すようなインスタレーション作品を展示します。（観覧無料）

◆ **作家プロフィール** 1990 年、岐阜県生まれ。東京都在住。愛知県立芸術大学を経て、2015 年に東京藝術大学大学院修了。身近にあるイメージを参照し生み出された家具や日用品のようなオブジェクト、映像の色調、モノの律動、鮮やかな照明や音響を組み合わせることによって、緻密なコンポジションを持った空間を表現している。近年の主な展覧会に、「2021 年度第 3 期コレクション展」(愛知県美術館、2022)、「Anything will slip off / If cut diagonally」(ANOMALY、2021)、「開館 25 周年記念コレクション展 VISION Part 1 光について / 光をとめて」(豊田市美術館、2020) など。

Photo courtesy: Sony Park Mini



■ NACT View 02 築地のはら

第二回目には、2 次元と 3 次元の融合をテーマに、実写にアニメーションを合成した映像やプロジェクションマッピングなど新しい切り口の作品を制作するアニメーション作家・築地のはら（つきじ・のはら、1994 年生）の作品を 2022 年 11 月（予定）より展示します。

3. NACT YOUTH PROJECT 2022 新美塾！ <https://www.nact.jp/education/youth/2022/>

これからの時代を生きるユースと一緒に、新しい学び舎をはじめます。

「新美塾！」は、13歳～18歳のユースによる、ユースのための、“表現”を学ぶ塾。身の周りのものごとを再発見しながら、世界の見方を広げたり、表現することの楽しさを学ぶ場所を、2022年6月～12月の半年間にわたって一緒につくってまいります。

塾長を務めるのは、アーティストの下道基行（したみち・もとゆき）。「へんな」通信教育キットの配布や、アーティストのスタジオビジットをはじめ、美術館の裏側見学や、オンラインとオフラインのミーティングなどを通して、日常や自分の中に埋まっているクリエイティブの種を見つけるプログラムです。終盤には、活動の軌跡として、展覧会や書籍のような形での発表も予定しています。



4. 国立新美術館 連続講座：今、絵画について考える <https://www.nact.jp/education/event/>

2022年は、「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」を皮切りに、「ダミアン・ハースト 桜」展、「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション」と、15世紀イタリア・ルネサンスから今日に至るまでの多様なジャンルの絵画を紹介する展覧会が集結します。そこで、本講座では、今日の美術史研究・美術批評を牽引するゲスト講師を招き、開催中の展覧会に関連しながら、様々な視座から絵画について深く問い直すための、全4回の連続講座を開催します。（参加費無料、事前申込制）

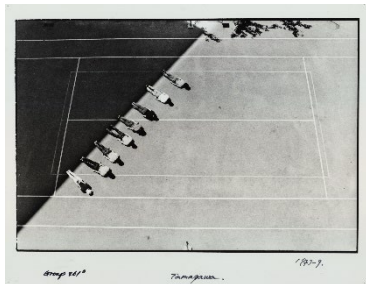
【今後の開催予定】 詳細は決まり次第、当館HP等にて発表いたします。

第3回 8月7日（日） 講師：多摩美術大学 准教授 大島徹也

第4回 9月19日（月・祝） 講師：美術批評家 沢山遼

5. 国立新美術館所蔵資料に見る1970年代の美術—— Do it! わたしの日常が美術になる

https://www.nact.jp/exhibition_special/2022/doit/



国立新美術館の主要資料である安齊重男の写真をガイドラインに、当館のアーカイブに所蔵されている美術関連資料を紹介する小企画展を10月8日（土）～11月7日（月）まで開催します。1960年代後半以降、新たに生まれた芸術の動向は、写真や映像、印刷物や郵便による通信、イベントやパフォーマンス等により、多様化していきます。本展では、70年代にコピー（ゼロックス）やビデオなどの自主的なメディアを用いて仮設的な日常を記録し、表現に変えた作家たちの活動から、現在に通じる読みの可能性を紐解きます。（観覧無料）

※本展覧会は、「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」の連動企画です。

安齊重男「グループ361° 1973年9月 多摩川、東京」1973年 ©Estate of Shigeo Anzai

6. 今後の企画展予定 https://www.nact.jp/exhibition_special/

■ ワニがまわる タムラサトル

2022年6月15日（水）～7月18日（月・祝）

■ ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション

2022年6月29日（水）～9月26日（月）

■ DOMANI・明日 2022-23

2022年11月19日（土）～2023年1月29日（日）



報道関係のお問い合わせ

国立新美術館 広報・国際室 Email: pr@nact.jp 〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

TEL: 03-6812-9925 (平日 10:00-17:00) FAX: 03-3405-2532